

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2012.02.No174

2月号

目次

平成23年度 高校生建築デザインコンクール入選作品発表	1
道士会の動き	4
実行委員会報告	5
〔地域貢献活動センター・まちづくり・新法人化特別〕	
青年・女性の窓	6
〔No.52 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会〕	
支部だより	7
〔後志・紋別・岩内〕	
information	8

URL <http://www.h-ab.com/>

平成23年度 高校生建築デザインコンクール入選作品発表

北海道では、平成8年度から建物を所管する部局の協力を得ながら、道内の工業高校生（建築系）を対象に「高校生建築デザインコンクール」を実施しています。平成12年度からは、コンクールの内容を一層充実するため、(社)日本建築家協会北海道支部、(社)北海道建築士事務所協会、(社)北海道建築士会との共催事業としています。

今回の課題は、夕張市に予定している（仮称）南清水沢団地の木造平屋建て延べ床面積80㎡程度の「公営住宅の集会所」で、団地の入居者や周辺住民のコミュニティ形成の要となる施設として設計提案を求めたところ、5校90人から53作品の応募がありました。審査にあたっては...

- ・ 高校生らしい若々しさと創造性にあふれているか。
- ・ 設計のコンセプトやデザインに魅力があるか。
- ・ 立地条件を活かしているか。
- ・ 実施設計に反映させ得るデザインであるか。

と言った観点から、厳正に審査を重ねた結果、最優秀作品賞1作品、優秀作品賞3作品、佳作5作品を選定しましたのでここに紹介致します。

最優秀 作品賞

「黒いダイヤ」の集会所

植木 亮輔	（北海道札幌工業高等学校 1年）
本間 悠太	（北海道札幌工業高等学校 1年）
榮田 民人	（北海道札幌工業高等学校 1年）

□設計趣旨

この建物の平面形である6角形は黒いダイヤ（石炭）を表した市章をモチーフにして計画しました。

集会室は簡易的に2分割出来るように、出入口を2カ所設けました。出入口は全て引き戸を採用し、ユニバーサルデザインに配慮し、便所にはベビーチェアをはじめ、オストメイトも設置しました。暖房はFF暖房機を床下に設置し地球熱も利用したパッシブ換気又冬期期間の雪を地中に貯蔵した雪水冷熱を利用した冷房設置も利用出来るように計画しました。屋根から落ちる雪を地中に落とすため、開口部を広くとることが出来、開放的な集会所になりました。



□審査講評

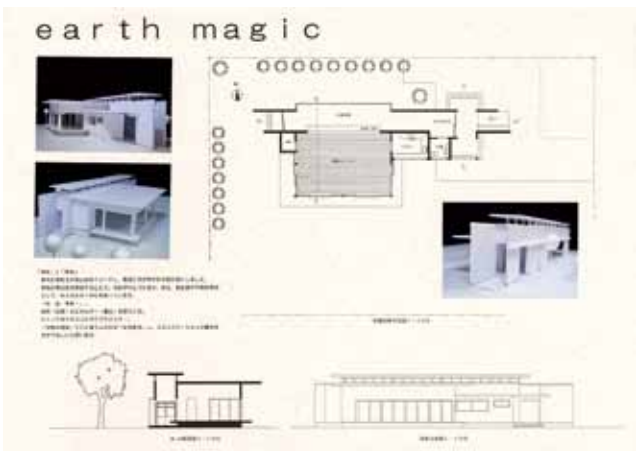
夕張市の市章に取り入れられた黒ダイヤ（石炭）を表す六角形をモチーフとした平面プランはまとまりがあり、そのシンボリックなデザインとハイサイドから採り入れられた明るい内部空間が相まって、誰もが立ち寄りたくなる気持ちのよい集会所である。

また、雪処理、設備や省エネなど、様々な視点からアプローチして考えられており、完成度の高い作品である。デザイン、コンセプトとも秀逸な作品であり、特に高く評価されました。



優秀 作品賞	<h2>Petals of cherry blossoms</h2>	中谷 鴻 (北海道札幌工業高等学校 3年) 宮川 和也 (北海道札幌工業高等学校 3年)
<p>□設計趣旨 夕張は財政破綻をきっかけに人口は減少していきました。そんな夕張を元気にしようとするプロジェクト、「夕張桜守」を知り、とても感動しました。市民全員が協力して、桜やもみじを植え、育て、日本一の桜の名所にするという町づくりが夕張を救うと思います。夕張の集会所は、その桜ともみじをモチーフにしました。上から見ると、もみじの葉を思わせる5枚の大壁で形態を表現し、横から見ると、大きな桜色の壁が一枚の桜の花びらに見えます。敷地には毎年1本ずつ苗を植えるスペースを設け、桜ともみじでいっぱいになります。桜ともみじが市民に元気を与え、この建物は夕張を象徴する建物になり、夕張は桜ともみじで溢れるでしょう。</p>		

優秀 作品賞	<h2>逸楽～懐かしさ溢れる集会場～</h2>	斉藤はつめ (北海道函館工業高等学校 3年)
<p>□設計趣旨 外観は、昔夕張に多く見られた炭鉱住宅をイメージしてデザインしました。そのため、お年寄りの方や地域住民に親しみやすい雰囲気となっています。庭には炭鉱をイメージした遊具や、木を活かした遊具を設置しています。屋根にはソーラーパネル、小窓を設置し光を十分に取り入れることができ、煙突は通気口の役割を果たし、冷暖房負荷の低減を目指しました。室内は、木の温もりを感じられる内装とし、段差のないユニバーサルデザインを心がけました。 『逸楽』とは、「気ままに遊び、楽しむ」と言う意味があり、皆が集い楽しめる集会場になっていくことを願っています。</p>		

優秀 作品賞	<h2>earth magic</h2>	市原 直典 (北海道苫小牧工業高等学校 3年) 佐々木湧太 (北海道苫小牧工業高等学校 3年) 小林 逸人 (北海道苫小牧工業高等学校 3年)
<p>□設計趣旨 「開放」と「解放」 雄大に連なる夕張山地をイメージし、東西にのびやかな平面計画にしました。南側の開口部を開放することで、内部がひとつになり、また、集会室が中間的領域として、外と内との一体化を図っています。 「光・風・季節…」 自然（地球）のエネルギー（魔法）を取りこむ。ヒトノチカラモスコシダケプラスシテ…。 「空間の開放」 ここに集う人たちが「心を解放」し、コミュニケーションの魔法をかけてほしいと思います。</p>		

佳作	工藤 遼一 (北海道小樽工業高等学校 3年)
	一戸 友輝 (北海道小樽工業高等学校 3年)

YU-PARO

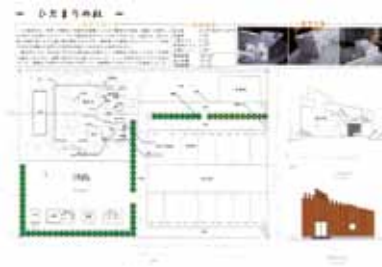
アイヌ語で鉱泉の湧き出る所という意味を持つ「ユーパロ」という言葉をテーマに屋根にはマンサード屋根という昔の夕張が炭鉱で盛んであった頃の労働者の住宅屋根にし、昔を思い出してもらいまた活気あふれる町を取り戻してもらいたい・地元の子供たちに夕張のすばらしさをもっと知ってもらうためこのテーマに設定しました。



佳作	秋山 愛斗 (北海道小樽工業高等学校 2年)
	久米田和義 (北海道小樽工業高等学校 2年)
	長谷川大樹 (北海道小樽工業高等学校 2年)

～ひだまりの杜～

この集会所は、外壁・内壁共に木質材を基調としており敷地内の歩道・遊園にも使用し、木の温もりを感じられるシンプルで個性的なデザインに仕上げました。玄関には、椅子を設け足腰の弱った方も靴の脱ぎ履きも安心です。集会室との境界にはパーテーションを設け大切な会議にも使用でき普段は収納しておき広々と使用できます。



佳作	田畑 雄大 (北海道札幌工業高等学校 3年)
	笹本生武樹 (北海道札幌工業高等学校 3年)
	西口 敬太 (北海道札幌工業高等学校 3年)

Steam Locomotive ～希望を運ぶ蒸気機関車～

昔、石炭で賑わっていた夕張をまた石炭で復活させたいと思ひ石炭から思いついたのが蒸気機関車です。蒸気機関車は石炭を燃やして動き昔の夕張の経済を支えた乗り物なので今の夕張にまた希望を運んでくれるよう、蒸気機関車の形に設計しました。



佳作	三上 厚輔 (北海道函館工業高等学校 3年)
----	------------------------

風光 ～夕張メロンの集会所～

夕張の名産品である夕張メロンのハーフカットをイメージさせる外観でデザインしました。集会室は南面および東西面に大きな窓を設けて通風と採光を確保し、更に天窗を設けることにより1年中明るい室内となるよう考えました。



佳作	本保 力也 (北海道小樽工業高等学校 3年)
	山本 博紀 (北海道小樽工業高等学校 3年)

みんなんち

集会場は大切な話し合いの場。コミュニケーションの場。吹き抜けから差し込む光は開放感を生み、みんなが気持ちよく話すのにより環境だと思ひます。晴れの日、子供たちが遊ぶ姿を見ながら、大人たちはデッキで食事やおしゃべりを楽しめます。冬は豪雪が心配ですが、北側の壁はすべて屋根で覆ったので、除雪の心配がありません。



私は、まちづくり委員長として平成22年・23年の2回選定委員会に出席していますが、レベルの高さに毎回驚かされます。

CGで描かれたものと手書きの差はありますが、プレゼンの方法は各学校の考え方やそれを指導する教員の考え方にも表れていると思ひます。

選定委員会では、デザイン重視なのか、施工重視なのかかなり議論し選定に入りますが結果デザイン・施工の双方を兼ね備えた作品が選定されることが多いようです。

近年作品の減少はありますが、レベルの高さは年々上昇傾向にあるように思ひます。

これからも、高校生建築デザインコンクールに期待しております。

(社)北海道建築士会 まちづくり委員会
委員長 本吉 定

重要！3月23日開催の通常総会出欠ハガキは返信されましたか？

平成24年通常総会は、新法人移行に向けて定款改正のため正会員数の3/4以上の出席が必要です。平成23年12月1日発刊の「北海道建築士12月号」に案内書と出欠ハガキが同封されています。

正会員の方は、必ず「通常総会はがき」をご返信ください。

※欠席される場合は、「通常総会はがき」の委任状欄に記載の上、返信ください。

道本部の主な会議報告

◆第4回理事会

《開催日》 平成23年12月16日(金)

《議案》 1) 11月末事業及び収支状況報告

2) 第36回全道大会(釧路大会)の事業報告及び収支報告

【青年サミット】平成23年9月23日 参加122名 【大会】平成23年9月24日 参加352名

3) 第2回通常総会(予算総会)開催について、平成24年度第1回通常総会(決算総会)に併せて開催する

4) 平成24年度一般会計及び特別会計暫定予算について

5) 第38回北海道建築士会全道大会の開催地

【開催地】恵庭市 【主管】恵庭支部 【開催日】平成25年9月20日(金)・9月21日(土)

6) 平成25年春の叙勲候補者について

7) 各種規則の改正

8) (社)北海道建築士会支部会費について

9) 会員の入会承認 平成23年8月～10月 新規入会者41名

(社)北海道建築士会 平成24年・25年度実行委員会

委員会	総務委員会	事業委員会	情報委員会	青年委員会
委員長	宮原 進 (旭川)	中野 利也 (旭川)	岡田 隆 (十勝)	針ヶ谷拓己 (札幌)
副委員長	西岡 誠 (札幌) 大原 公子 (札幌) 鈴木 徹 (十勝)	内海 純一 (札幌) 河村 和義 (札幌)	三浦 浩 (札幌) 天城 秀典 (釧路) 神田 光英 (十勝)	前田 繁 (釧路) 斎藤 勝哉 (旭川) 鳩沢 準一 (室蘭)
委員	藤田 栄治 (札幌) 山田 良彦 (函館) 高橋 幸二 (日高) 木幡 正和 (恵庭)	舩田 彰 (留萌) 坂井 正周 (札幌) 萩川 正人 (旭川) 下元 英徳 (釧路)	森田ゆう子 (札幌) 岡田 光弘 (旭川) 山下 聡 (日高) 用田 史門 (苫小牧) 高松 徹 (上富良野) 道塚 勉 (後志)	南雲 勇次 (千歳) 松本 純 (札幌) 森 勝利 (日高) 土田 浩貴 (上富良野) 北野 学 (名寄) 山田 大樹 (十勝) 伊井 崇史 (中標津) 工藤 誠 (函館)
委員会	女性委員会	まちづくり委員会	地域貢献活動センター	
委員長	本間 恵美 (小樽)	本吉 定 (小樽)	鈴木 基伸 (札幌)	
副委員長	工藤美智子 (札幌) 金子ゆかり (釧路)	佐藤 和良 (十勝) 鈴木 利治 (恵庭)		
委員	東 道尾 (札幌) 新海 直美 (札幌) 種田 若菜 (札幌) 早川 陽子 (小樽) 吉田 幸恵 (室蘭) 高木 宣恵 (室蘭) 米本 一恵 (旭川) 斉藤 裕美 (旭川) 川勝美由紀 (斜里)	山田 直登 (空知) 滝田 祐人 (士別) 島 柔美 (北見) 熊谷 智 (苫小牧) 佐々木正行 (札幌) 小川 光代 (札幌) 【応急危険度判定制度検討部会】 部長 牛田 健一 (札幌) 委員 池田 浩司 (札幌) 小町 美穂 (札幌)	本吉 定 (小樽) 本間 恵美 (小樽) 針ヶ谷拓己 (札幌)	

地域貢献活動センター委員会

委員長
鈴木 基伸

当委員会は12月3日、H23年度四回目の委員会を開催し、1年間の委員会活動について総括的な討議を行いました。

H23年度は連合会の推進センターにおいて、先にこの欄で報告の通り助成金支出に大幅な見直しがあり、従前通りの予算措置が講じられなくなりました。

すなわち、H22年度に継続事業として計画された貢献活動に関してはH24年度まで助成するほか新規の助成は行わないという方針です。

但し、今後は当面の間全国の各貢献センターに交付されている基金の取り崩しによる予算措置で活動することとしております。

今後は連合会において、センター設立の目標でもあったNPO法人化を見据えた組織の改編につながる議論が交わされることになりそうです。

本年度当センターでは推進センターで決定した上記の方針通りに継続事業活動の申請を受付けるほか、北海道独自の助成（小規模事業活動など）にも積極的に取り組むこととしました。

今年度も全道士会会員が関わる地域の活性化・貢献活動に少しでも役立つよう支援して参りますので、この制度を十分に活用されることを希望しております。

H24年度は委員会構成メンバーに異動があり、委員長以下青年・女性・まちづくりの各委員長で委員会を運営することといたしました。

また、この活動の広報の一環として簡単なリーフレットも用意しました。会員皆様のご理解と共に当制度の発展に努めます。

どうぞ宜しくお願いいたします。

まちづくり委員会

委員長
本吉 定

平成23年度 第4回 まちづくり委員会開催 議題

1. 全道大会（釧路大会）の反省および「函館大会」の検討
*分科会の開催時間以外に街歩きを含めて過去・現在・未来を検討
2. 高校生建築デザインコンクールの結果と動向
*平成8年開始 今年で16回目を迎えたが出展作品が減少傾向にある。
運営委員会：5月
選定委員会：9月
来年度の運営・選定委員の選出(案)
3. 高校生「建築甲子園」の動向
*5月案内発送 今年度1校
今後の連合会への要望事項
*平成12年度から北海道、(社)北海道建築士会、(社)日本建築家協会北海道支部、(社)北海道建築士事務所協会との共催事業になった「高校生建築デザインコンクール」に当委員会も参加しており、毎回60点前後の作品が応募され最優秀作品は北海道が整備する公共建築物のデザインに採用されます。同じ学校で10数点もの応募があり、授業の一環として行なわれている学校もあり、同時期の「建築甲子園」の募集は別にカリキュラムを設けるか、授業以外で行うか、何れにしても時期・時間的に問題があるように思います。
4. 景観整備機構の取り組み
*景観整備機構先進地の情報収集を行い、整備機構の指定に向けて検討を行う。
5. 地域におけるまちづくり活動の来季への取り組み
*H23年度は士別市で「発見！～更なる我がまち士別の未来」を開催
来季の開催地の検討
6. 来季への委員会体制
*1名増員
7. 応急危険度判定ワーキンググループ設置と動向
*ワーキンググループを応急危険度判定部会とし3名程度で活動をする。

新法人化特別委員会 支部の統合について

委員 専務理事
鈴木 功一

これまで道士会施行規則では、支部の設立についてしか条文はありませんでしたが、この度某支部から解散・統合について対応できるように規則を変えてもらいたいとご意見を頂き、現在下記（規則第13条第3項）により対応できる様考えています。

運営規則第13条

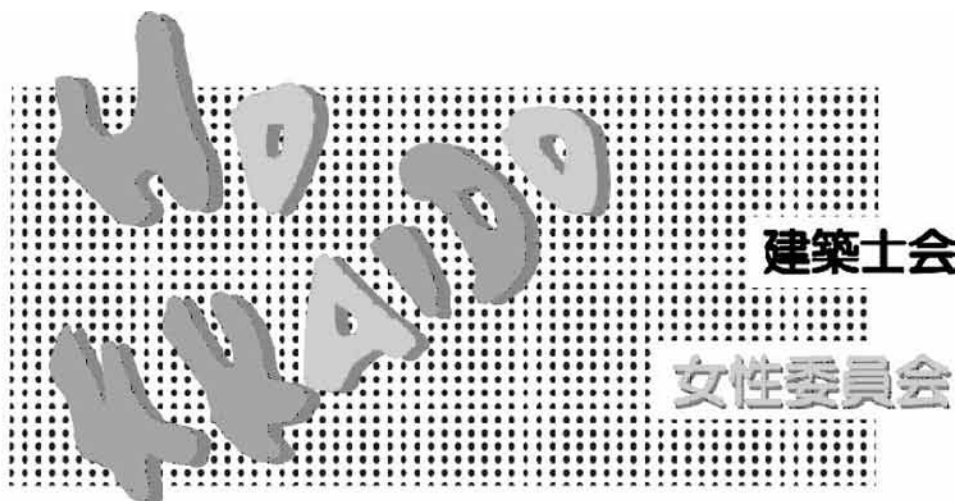
（支部の設立及び統合）

- 第13条 支部を設立するときは、
- 1 発起人を定め、支部規約案及び所属会員名簿を添えて会長に申し出るものとする。
 - 2 支部はおおむね正会員が50名以上在住する地域に設置することができる。
 - 3 支部を統合するときは、その統合しようとする双方の支部長は、それぞれの支部総会において、統合の承認を得た後、別に定める統合合意書に連名で署名し、双方の支部が合意にいたった日の前日までの貸借対照表及び統合する理由を添えて会長に提出しなければならない。

現在支部におきまして会員の減少や若年会員の未入会などにより運営は厳しさが増してきている状況ですが、統合によって活性化が期待できるのではないかと思います。

昨年来、新体制検討部会及び定款改正部会で鋭意定款及び規則について検討して参り、必要に応じ北海道とも協議を重ね、かなりの部分は整備し、その内容については理事会や支部長・事務局長会議で説明してきました。今回はその後、変更のあった支部の統合について記しました。

No. 52



たすきを繋ぐ

女性委員長 **本間 恵美**

三が日は実業団、箱根と駅伝三昧で過ごしました。解説者が、前走者が快走でたすきを渡すと、次走者もいつもより成績が良いですねと言っていたのが印象的でした。

今年度から女性委員長をさせていただき事になりました。委員の顔ぶれはほとんど変わりませんが、役割が少し変わります。副委員長に工藤美智子さん（札幌支部）、金子ゆかりさん（釧路支部）、連合会委員には東道尾さん（札幌支部）がなります。他の委員も皆てきぱきと動いてくれるので、安心のサポートをしてくれるでしょう。

連合会の委員を4年間させていただき、全国から集まった委員から多くのことを学び経験しました。昨年7月には、宮城県仙台市から石巻市にかけて震災の爪跡を視察し、その現実がすぐには受け入れられなかった事を覚えています。昨年の全道大会にも来てくださった今野宮城県女性委員長が、「皆さんにこの現実を見て、感じて欲しいんです。」と言った言葉が忘れられません。福島県在住の友人から「復興元年」と書いた年賀状が届きました。これは地震や原発の被害を受けた人々だけのことは無く、今年は皆が心に刻まなければいけない言葉でしょう。

歴代女性委員長を経て、早川前女性委員長からとても良い形で受け取ったたすきです。今までの委員長が築いてきた良いところをそのままに、新しい事にも挑戦していきたいと思っています。次にも笑顔でたすきを渡せるように。



美味しくて楽しかった忘年会

平成23年度 全国女性建築士連絡協議会 京都大会 事例報告に向けて

道南B（室蘭支部） **高木 宣恵**

平成24年2月17(金)～18(土)の2日間、平成23年度全国女性建築士連絡協議会 京都大会が開催されます。

北海道の活動事例報告は、F分科会＜子どもと住環境＞で行うことができるようになりました。

当日は、札幌支部の新海直美さんと私で事例発表をさせていただきます。

今回の京都大会では、分科会の前に、分科会ごとのテーマにそったフィールドワークが設定されており、F分科会では、京都明倫学

区の子どもの暮らし今・昔、というテーマで、約3時間、京都の街を歩く予定です。

明倫学区は、平安京以来、京都の商業・経済の中心地で、問屋街として、商いと住まいが共存する暮らしが育まれた地域の様です。その街並みの中で育まれてきたコミュニティの再生などを見学してきます。

北海道にはない、長い歴史の中で培われた文化や伝統の受け継ぎ方などが、これから、北海道の住文化を伝えて行くやり方の参考になるのではないかと、今からとても楽しみです。

フィールドワークの後、各分科会が開かれ、F分科会＜子どもと住環境＞の中では、2つの事例発表があり、その1番目に私たちが発表をさせていただきます。

事例発表では、平成11年からの子どものテーマとした取り組みの後、「女性建築士と考える 子どもをはぐくむ住まいづくり」という冊子を発刊し、それをきっかけに活動が広がり、中でも、高校の家庭科の先生たちとの4年に渡るセミナーを開催してきたことを主に発表をしてくる予定です。

高校の先生たちとのセミナーを通し、生の現場の先生から意見をもらう中で見えてきた課題や今後の展望についても報告し、各地の方々からご意見をいただきたいと思っています。

後志支部

中央倉庫群再活用の取組み

理事

黒瀧 敏雄

現在、JRニセコ駅前周辺にある、ように農業協同組合が所有する7棟の倉庫群の再活用を検討しています。この倉庫群は、大正から昭和にかけて、羊蹄山ろくの農産物の集積場として活用されておりました。そのなかでも、石造り倉庫やでんぷん工場など歴史的建造物としても大切な建物であると考えられます。これまで、建築士会後志支部の方々の協力を得て、活用方法などの報告書の提案がありました。そうしたことを踏まえ、昨年は、「中央倉庫群再活用検討委員会」を発足し、再活用についてのアンケート調査や、どなたでも参加できる意見交換会を開催しました。また、10月には、この倉庫群を舞台としたイベント「倉庫邑」を開催しました。会場では、なつかしの写真展、様々なアート体験や、紙ヒコーキの元世界チャンピオンである飯島実さんに来ていただき「ふしぎヒコーキワークショップ」を体験しました。なかでも、北海道大学大学院の角幸博教授による講演では、歴史的建造物の保存や活用事例を紹介していただき、改めて保存の必要性を感じました。今後も引き続き、意見交換会や検討委員会を開催し、建築士会後志支部の協力を得ながら、ニセコ町の遺産として、未来の子供達に倉庫群の保存と価値を伝えて行きたいと考えております。



紋別支部

遠いと思われがちなおホーツク

事務局長

森谷 裕一

オホーツク海中央に位置する紋別支部は、紋別市、雄武町、滝上町、興部町、西興部村の5市町村で、現在、正会員46名、準会員19名、賛助会員47社で年々減少傾向にあります。

退会者や高齢化が進み、支部事業の実動部隊とも言える青年部員層減少の中、数名が新規会員として入会され、少ない会員の中、公園清掃ボランティアなどに積極的に取り組み、ゴルフ、パークゴルフ、ボウリング大会を開催し、支部会員交流を深めています。

遠いと思われがちなおホーツク地方ですが、北海道縦貫自動車道に直結している旭川紋別高規格道路は、丸瀬布まで無料区間として開通しており、途中の浮島峠で降り滝上経由の国道のほか、最終丸瀬布より紋別へは道道の金八峠を抜け、かつての東洋一の金山「鴻之舞」を通り、古建築として北海道建築士の表紙を飾った「上藻別駅通」を横目にオホーツク紋別市へと繋がっており、車で高速道路を使った場合、旭川-紋別は2時間程度、札幌-紋別は3時間半程度と短縮されました。

オホーツク食材の運搬や、救急患者の移送時間が短縮されるなど、道央圏との交通が益々便利になってきています。

地震地域係数Z=0.8の当地域は地震や津波が少なく、大雨や大雪なども少なく、自然災害が少ない地域です。流氷時期は厳寒ですが・・・。

冬の流氷観光、夏のオホーツク海での釣り、滝上の芝桜など、遠いようで近いオホーツク紋別支部へ是非お立ち寄り下さい。

岩内支部

新年にあたって

支部長

原 勉

今年は新体制に向けての最終年度であり、各支部におきましてもいろいろ多忙な年です。支部規約の改定・新年総会の開催時変更・本部総会の委任状とりまとめ・代議員制への移行等など。当支部でも準備と会員への周知等で、忙しい年となります。

さて各支部からの話題提供とのことですが、当支部で会員数の減少が一番の懸案事項であります。地元工業高校もなく、新規入会される方も少なく平成元年に当支部が発足時70余名おりました会員数が平成24年1月現在33名になりました。青年部もありますが、満45歳未満の条件でスタートしましたが、少数のため年齢制限をほとんどもうけず、任意参加で運営しております。私も支部長に就任直前は、青年部長でした。もちろん今でも青年部の事業には、声をかけられて参加しております。まだ、しばらく続きそうです。また、退会者に何とか慰留をお願いするのですが、定年により退社とともに退会とか、高齢につき廃業等、景気低迷につき退会など何ともしがたい理由です。その中で、親と子で入れ替わり等があり、会員数増減なしの場合もあります。

今年は、何とか数名の新規入会者を予定しておりますので、岩内支部の平均年齢が若返り、活発になることと期待しております。

皆様の各支部ではどのような状態ですか。今年1年が、良い年でありますよう祈念いたします。

CPD認定プログラム（1月認定）

- ◆平成24年度「すべての建築士のための総合研修」
 《日程及び会場》 3月2日(金) 13:15~17:00
 北海道第2水産ビル(札幌市)
 《単位数》 4単位
 《問合せ先》 (社)北海道建築士会
 TEL 011-251-6076
<http://www.h-ab.com/>
- ◆高齢等住宅改善講演会・実務者研修会
 《日程及び会場》 3月3日(土) 講演会10:00~12:00
 研修会13:00~17:00
 旭川市障害学習センターおびつた(旭川市)
 《単位数》 2単位(講演会) 4単位(研修会)
 《問合せ先》 旭川市都市建設部建築指導課管理係
 TEL 0166-25-8597
<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/kenchikusidou>
- ◆震災建築物応急危険度判定訓練
 《日程及び会場》 2月14日(火) 13:00~15:30
 東川町農村環境改善センター(東川町)
 《単位数》 3単位
 《問合せ先》 北海道上川総合振興局旭川建設管理部建設行政室建設指導課建築住宅係
 TEL 0166-46-5947
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ksd/>
- ◆～環境にやさしい省エネ給湯機～
 「業務用エコキュート」説明会
 《日程及び会場》 2月21日(火) 13:30~15:45
 サン・リフレ函館(函館市)
 《単位数》 3単位
 《問合せ先》 北海道電力(株)函館支店
 TEL 0138-22-2539
- ◆北海道の建築技術向上のための講習会
 《日程及び会場》 3月12日(月) 10:00~15:00
 北海道建設会館(札幌市)
 《単位数》 4単位
 《問合せ先》 (社)北海道建設業協会
 TEL 011-261-6185
- ◆技術講習会
 《日程及び会場》 2月9日(木) 14:00~17:00
 ホテル黒部(北見市)
 《単位数》 3単位
 《問合せ先》 (株)渡辺組
 TEL 01586-2-2181
- ◆第22回旭川建築作品発表会
 《日程及び会場》 2月15日(水) 18:30~20:30
 東海大学旭川キャンパス(旭川市)
 《単位数》 2単位
 《問合せ先》 旭川市都市建設部建築指導課
 TEL 0166-25-8597

講習会のご案内

建築士法第22条の4に基づく
 すべての建築士のための総合研修

〈継続能力開発(CPD)制度特別認定講習会〉

主な内容は、「集合住宅の大規模修繕・建築士の業務拡大方策」等です。建築士の自己研鑽の場として、現在まで受講されていない方、新しく建築士免許を取得された方はもとより、過去に受講された方もぜひ参加下さい。

日 時：3月2日(金) 13:15~17:00

開催場所：北海道第2水産ビル

札幌市中央区北3条西7丁目

受講料：会員8,000円(会員外10,000円)

申込方法：申込書に必要事項を記載し、受講料を添えて、北海道建築士会本部にお申込みください。

※申込用紙はホームページからもダウンロードできます。
 ※郵送でお申込みもできます。詳細は、ホームページをご覧ください。

(社)北海道建築士会ホームページ <http://www.h-ab.com/>

図書案内

2011



実務に役立つ寒地住宅性能向上 リフォームのポイント

- ◎第54回寒地建築技術講習会テキスト
- ◎A4判・68頁 ◎定価：2,500円
- ◎発行日：2011年刊
- ◎発行：(社)北海道建築士会

2010



実務に役立つ寒地住宅の環境整備の ポイントと解説

- ◎第53回寒地建築技術講習会テキスト
- ◎A4判・68頁 ◎定価：2,500円
- ◎発行日：2010年刊
- ◎発行：(社)北海道建築士会

2009



実務に役立つ寒地住宅設計・施工監理の ポイント

- ◎第52回寒地建築技術講習会テキスト
- ◎A4判・81頁 ◎定価：2,500円
- ◎発行日：2009年刊
- ◎発行：(社)北海道建築士会

編集後記

冬真っ直中の2月となりました。各地での楽しい冬まつりのニュースが届く中、空知地方など記録的な降雪にみまわれている地域もあり、雪と寒さにうんざりされている方も多いのではないのでしょうか。でも、あと少しの辛抱です。暖かな春はもうすぐそこに来ています。

今号では、「高校生建築デザインコンクール」の作品を掲載しました。どれも個性あふれる優秀な作品ばかりです。近い将来、私たちと同じ建築士になるであろう学生達の力作に、明るい未来を感じました。

情報委員会 三浦 浩

情報委員会委員長／岡田 隆
 副委員長／三浦 浩・天城 秀典・神田 光英
 委員／森田ゆう子・岡田 光弘・山下 聡
 用田 史門・高松 徹・道塚 勉

北海道建築士 No.174号

印刷 平成24年1月／発行 平成24年2月

編集・発行 社団法人 北海道建築士会
 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
 大五ビル
 電話 (011) 251-6076番
 URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
 電話 (011) 811-7151番